

# 聖 鐘



日本聖公会東京教区 **東京聖三一教会**  
 牧師 司祭 高橋 顕  
 〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-10-11  
 TEL 03-3421-3646 FAX 03-3414-9023  
 URL trinity.web.infoseek.co.jp

「人を迎えるために、教会をきれいに整理整頓しよう」

7月22日主日の礼拝後に、教会中の大整理をします。

冒頭の言葉は高橋顕司祭のもので、そのお気持ちに込めて、昨年からホールや事務室の床張替え、聖堂ステンドグラス裏整備、何十年ぶりかでの日本間の障子張替えなど、少しずつ整備をしています。

来る22日は、信徒の皆さんのお力を借りて、普段外からは見えないトリニティハウスの二階の部屋や、聖堂のオルター上の物置を中心に整理をします。

当日は、「保存するもの、捨てるもの」を判別し、捨てるものは翌週のうちにトラックで運んで処分する予定。各働きグループの方は、まずは各自の場所を整理しましょう。

書類には要注意。聖三一教会の歴史を物語る文書類は失わないように保存をお願いします。

力仕事はできなくても、昔のことをご存知の方々はこの「要

る・要らない」の判断などにご協力いただきたいと思えます。

掃除プロジェクト 川島一郎

**AED(自動体外式除細動器)をホールに設置しました。**

突然呼吸困難などに陥ったときに使用するAEDが5月20日に導入されました。設置場所はホールの西側壁です。使い方は音声による説明が自動で流れるようになっていきますのでこの説明に従って下さい。又解りやすく使い方を説明したDVDビデオも付属しているのでご利用下さい。



5月20日の講習会では多くの参加者が体験

### 【予告】

7月 15日ブドウの木のお泊まりキャンプ

主教巡回日

堅信式(4名)

22日 聖餐式司式

広谷和文司祭

(聖公会神学院校長)

教会大整理

29日 聖餐式司式

相澤牧人司祭(横浜教区・管区総主事)

8月

19日13時半 夏休み子ども映画会

画会

26日 礼拝後ファミリーパーティー

9月

9日 敬老会

15日(土) 14時 逝去者記念礼拝

礼拝

22日(土) 14時 教区合同礼拝

(於・香蘭女院)

29日(土) 14時 第21回世界平和を祈る集い(主催 世田

谷宗教者懇話会)

(於・聖三一教会)

### 【編集後記】

■気がつけばそろそろ梅雨明け、聖鐘の発行が大幅に遅れ、お詫び申し上げます。誰もが忙しいと感じる現代。しかし、皆さんの原稿を通して伝わる人々の姿―幼子から九十代の方々の中には「忙しさ」の裏にある愛おしく豊かな命の躍動・輝きを感じます。大切にしたいですね。あらためて、玉稿をお送りくださった皆さんに感謝申し上げます。

(KMK)

■発行が遅れましたことをお詫びしつつ、お伝えしたい事柄がどんどん溢れていくことに、教会の営みの豊かさを感じています。特になかなか教会にいらつしゃれない方へ、教会の空気を届けたいように心がけたいと思います。皆さまからのアイデア、寄稿なども大歓迎です！今年も猛暑の兆し、水分補給を心がけられて、どうぞお元気で過ごしてください。

(MMT)

キリスト教は「愛の宗教」と言われる。それは「愛」が最も大切だと教え、聖書には「愛」という言葉が数多く記されている。日本語の聖書では、その中に「愛」という表記が七三二回も表れる。日本語で「愛」、英語で「Love」と一言でいうが、聖書が初めに書かれた原文のギリシア語の概念では、「愛」を四つにとらえる。

ある。これは広い人間関係の愛で、友情、博愛、人類愛、また国家間の友好関係などもフィリアの愛である。私たちが、「愛」といえば、何か情緒的・感情的に心が動き、理屈なしに沸き立ってくる熱意のようなこれらの愛を思いがちだが、キリスト教で教える示す「愛」は、「アガペー」という愛である。

## 考える愛

### 牧師セラピム 高橋 顕

まず「エロス」と言われる愛がある。これは自分が持つていないものを得ようとする熱情の愛で、その対象となるのは、美、才能、能力、物品、お金、権力、異性などである。

次に「ストルゲー」という愛がある。これは肉親間の愛で、家族、親子、身内、親族、血族などがその愛の対象となる。また「フィリア」という愛が

これは、神の愛、絶対的な愛、無条件の愛、情緒的・感情的ではない、「考える愛」である。相手を感情的に受け入れ難くても、相手が誰であれ、どうであろうとも、神に、イエス・キリストに、「お互いに愛し合いなさい」と私は言われたから、無条件に私は相手を愛する、という「考える愛」である。アガペーの愛はすばらしい

リンカーンは南北戦争のかつての敵である南軍の指導者たちを赦した。ナイチンゲールは看護師として戦場に赴き、敵味方の区別なく兵士たちの命を守った。マザー・テレサは宗教の違いを超えて死に臨む人たちに安らぎと癒しを与えた。そして私たち一人ひとりには、「考える愛」を持ちなさい、とイエスに招かれている。

### 高橋顕司祭 聖十字教会牧師就任

今年度4月1日付けで、高橋顕司祭は、教区より同じ山手グループの聖十字教会の牧師に任命され(4月29日任命式)、二つの教会を同時に司牧することになりました。従来管理司祭という立場とは異なり、全く同じように二つの教会にかかわり、牧会をすることになります。高橋司祭は毎月第1、第3、(第5)主日は聖三一教会で、第2、第4主日は聖十字教会で聖餐式を司式、週日の木曜日は一日聖十字で勤務されます。

この人事に伴い、聖三一教会の第2、第4主日の聖餐式は、現在香蘭女学校チャプレンを務められる高橋宏幸司祭が司式されます。これらはいくまでも基本的な取り決めで、教会暦や二つの教会の催し物などによっては、臨機応変に対応する予定。教区としても初の司牧体制であり、様々な面において高橋司祭にかかる負担

は大きくなるため、今後信徒の理解、協力が必要になるでしょう(関連記事11頁)。

### ご復活から聖霊降臨へ

冷たい空気に身が引き締まるような2月22日(水)大斎中入りしました。今年は大斎中の主日の午後に、テーマをもって、詩編を唱え、聖書のみ言葉に聞き、沈黙、そして祈りと賛美のひとときをもちました。ご復活へ向かい、回を追うことに参加者も増え、主のみ恵みの証そのものでした。

復活日4月8日は高橋宏幸司祭司式。八年目となったハレルヤコーラスは、「今年こそはきちんと歌いたい」との希望もあり、パート練習を設けるなどしたことも功を奏し、高らかに主への感謝をお献げすることができました。

ご復活の五十日のお祝いを経て、5月27日聖霊降臨日の聖餐式をお捧げし、創立記念日を祝い、新たな一年へ歩みだしました。

### からし種



### 聖なる3日間の礼拝

4月4日夜からの3日間、復活日に向けて最後の集中的な黙想と祈りのときであった。「聖木曜日の礼拝」は、聖餐式制定の日。懺悔の祈りに続き、司祭が信徒の足を洗って、人に仕える主の姿を自ら示す。「最後の晩餐」の再現は、私たちに与っては「最初の聖餐式である。

礼拝後に覆い(フロンタル)がとられた聖卓(二年でこの時しか見られない)は、さすががしくも重みを感じられ、余計なもの、宣教の原点を見る思い。

5日の受苦日礼拝は、主教座聖堂での教区礼拝。十字架上で主が語られた7つの聖語が、祈りと黙想のうちに深められてゆく。教会を超えて、多くの方々へと心と心を合わせられることの恵みを実感する時

でもある。

6日のイースターヴィジルでは、この世の光であるキリストにすべてのものが照らされることが象徴的に示される。復活のろうそくに火が灯され、洗礼の約束の更新をするとき、私たちはまた、主とともに新しくされ、命をいただくのである。

私たちは毎主日の聖餐式で、この3日間の出来事を凝縮して体験する。しかし、こうして3日間、その時代と同じ時をかけて主の歩みを振り返り、ご復活の瞬間に向かっていく3日間は、日常に埋没しがちな私たちには必要な期間だろう。



### ぶどうの木は今

「聖三一ファミリーの中で  
喜ぶたのしむ」



「ぶどうの木」は、今年も少しずつ新しい歩みをはじめていきます。

最近、教会のお庭にたち、あれ?と、変化をお感じになった方もおおいと思います。

「エッ? あー、なんだか明るくなったみたい!」とか、「梅の実がいっぱいだね!」、或いは「あーそうかア!...庭の木に名札がついたんだネエ」、「木の名前が分かってイイじゃないの!」等など、フトお庭を見回して下さる方々の反応に、「ぶどうの木」子ども達はとても嬉しそうです。5月24日(ペンテコステ)の日、「ぶどうの木」分級活動は、『教会の樹木に名札をつける』作業を楽しましました。教会に植えられ

た樹木は、50数種にもおよぶのだそうです。

壮年会の川島 郎さん、藤松 曜さんたち有志により準備されたのは、まだ寒い冬でした。樹木の数や名前調べにはじまり、その名札の材料選定・文字の書き込み木に結ぶ麻紐の準備まで、実に細やかなものでした。この企画はいつの間にか私たちは「ぶどうの木」活動として、普通に受入れていたことも不思議なことです。

数年前ゼロに近かった主日の「ぶどうの木」礼拝出席者が、今のように回復するまでには、たくさんの信徒さんたちの応援と見守りとを戴きました。その顕著な姿が、今年4月山手グループ行事、グリーンデイ・ピクニックに見られた聖三一教会の活動であったのではないかと、私は感動を覚えたのです。

今年春以降の「ぶどうの木」をふり返りますと4月の分級活動『遠足』で北の丸公園の科学技術館へ行ったことや、イースター礼拝後の祝会で

「十字架に帰ろう」を東理夫さんのギターでコーラス隊に参加したこと等はとても嬉しいことでした。数年前からはじめた「子どものための英語会話」は、クリスマスや日常の礼拝で、お子たちが歌う聖歌でも楽しめるようになりました。単なるコラボレーションというものではなく、教会の家族としての存在をますます感じている昨今の「ぶどうの木」です。

感謝を持ってここに報告致します。(田島昌子)



グリーンデーピクニックでは  
中高生も大活躍

### 自己紹介

### 高橋宏幸司祭

四半世紀以上前になります。神学院三年時の主日勤務が「ご縁」の始まりでした。以後、聖職候補生、伝道師、執事、司祭の全て、それは同時に基礎作りの時でもありました。が、聖三一教会で学ばせて頂きました。そして、教会の礎には「神と人とに仕える教会は豊かに用いられる」という確信があるはずで。

第二・四主日の礼拝奉仕、心込めたいと存じます。

(司祭 高橋宏幸)



波でほぼ壊滅している。主な活動は仮設訪問とベースでの物資提供。何より優先されるのは被災者一人ひとりとうつくり話すこと。ボランティアと被災者という個々が繋がるのではなく、被災者同士の横の繋がりを生むこと。違う地域に住んでいた者同士が集められた仮設では、意図して働きかけなければコミュニケーションは出来上がらない。無縁を防ぎ、ボランティアが介在せずともそこに社会が成り立つことが理想だが、この先何年ここに住まねばならないのか分からない不安、孤独、地域や社会からの断絶を感じてしまう現実をいかに和らげられるか。

元々の土地柄が抱える問題が復興への道を妨げることもある。釜石には行政区画によって継ぎ接ぎされてきた歴史があると聞く。古くは伊達藩と南部藩、後には漁師町とかつて栄華を極めた鉄の町。そのため、住む地域によって気質も話し方も少しずつ違う。仮設の談話室で開いたお茶っことで独

りになりがちなお年寄りは、お一人だけ住んでいた地域が違うとのこと。生まれて70年以上を過ごした慣れ親しんだ環境から離れた今、簡単に人の溝を越えられないのだろう。ここに来るまで自分に何が出来るのか、力になれることなどあるのか考えていた。たった五日間。ただただ話を聞いた。その結果、誰かを勇気付けるところか、自分が元氣付けられてしまっていた。生きる力、前を向く力。破壊された死の街と一対になっているのは人々の生きる力そのものだった。苦しみや悲しみを抱えつつ生きる人々の日常に目を向けることこそが震災と向き合うこと、3・11を忘れないことなのではないだろうか。しかし、仮設には硬く閉ざされ開かれな

い家がある。表には大量の酒瓶。どうしようもないジレンマがある。

釜石から仙台に向かう高速バスに、この五日間ほとんど見かけることのなかった若者たちが続々と乗り込んでくる。

ボランティアなのか、地元の子どもたちなのか。最盛期には10万人に届こうというかつて岩手第二を誇った街は、時を経て人口4万人を下回る。明治と昭和の三陸地震、戦時の艦砲射撃、チリ地震の大被害を生き抜いた街。ゆっくりと流れる時間の中で、それでもここにはまだ街があるのだと思つた。また、必ずここに来て顔を合わせて話をしよう。

**手作りケーキの会  
作るも食べるも復興支援**

笠井明美

手作りケーキの会では、昨年の東日本大震災以来、ケーキの日の売り上げを総じて震災復興のために献金して参りました。大きな金額ではありませんが、これからも長く聖三二教会の東日本大震災復興支援プロジェクトを通して献金してゆこうと思つています。

ケーキの日には三二のケーキ職人たちが作ったおしゃれな



**まじわり**

**川島一郎さん**

川島一郎さんは誕生後しばらくの間を、母と共に、当時祖父秋山基二司祭が司牧する聖三二教会の牧師館(現トリニティーハウス)で過ごしました。

幼児洗礼を受け、日曜学校に時々参加し、その後はクリスマスやバザーに顔を見せることはあったものの、昨年三月二日の震災を機に教会に戻つたのはおよそ四五年ぶりのことでした。

そのことについて、「思い浮かぶのは、ご恩返しです。実は、私は二度、よく命を落とさなかつたというほどの自動車事故に遭いました。父は『お互いハンドルを握るドライバー、たとえ責任は10対0でも、徹底的に責めるな』と。そんな、という思いがありました。ところがある日、相手のドライバーの家族と思われる人から助けて欲しいという内容の電話をも

らいました。この時、何かの力が働いたのでしょう。自分が痛みを知つて、初めて人の痛みを知つた瞬間でした」。

会社員やガラス工芸の仕事を経て二年前からインテリアの会社を経営する一郎さんは、早速その力を教会で発揮しています。

トリニティーハウス玄関のスロープ作り、教会ホール床の張替え、ステンドグラス裏の棚設置等々：一郎さんは教会にもつと人が来てほしい、次の世代の若い人たちに教会の様々なことを伝えつなげていきたい、初めて訪れた人がまた来たいくなるような処にしたいと考えています。そこで環境の面でそれを担おうと、きれいで使いやすい場所作りを友人の服部貢士さんと一緒に続けています。

これからトリニティーハウスを片付け整備して、あの貴重な建物をいろいろな人が利用し、活用できるようにしたいと思つている一郎さんですが、教会委員、壮年会副会長、お掃除プロジェクトリーダーそして

バザー委員長補佐と、とても多忙です。

この六月十日に、今は離れて暮らしている一人息子の創士さんが、中部教区岡谷聖バルナバ教会で洪澤一郎主教、西原廉太司祭のもと洗礼、堅信を受けました。

一七歳の創士さんは去年の夏頃から時々教会に行くようになり、洗礼、堅信式当日の様々な出会いから、一郎さんはすべてが神さまのご計画のうちにあることを確信したといひます。

四月、創士さんはその後間もなく亡くなった祖父昭一郎さんの枕元で受洗の意志を話し、ヴァイオリンを弾きました。「きっと父の耳に届いていたいと思ひます」。



**山手グループ協議会  
担当も新たに**



今年は聖三二が幹事教会にあたる。係りも今まで担ってきたくださった砂田郁郎さんに、東理夫さん、中野恵美子さんに、高橋牧さんが加わり新たにスタート。

3月10日のナザレ修女会での黙想会、4月30日の恒例のグリーンデーピクニックは係のご苦労、ご尽力、細やかな声かけにより、盛会のうちに終わつた(参加人数など教会委員会報告参照)。

「過去十数年、年間行事が決まつている中で、マンネリ化に陥らず、かつ、グループ協議会の役割、目的をどうするかが課題」と東さん。「毎年の積み重ねを尊重しつつ、世田谷(杉並)地区の宣教につながる働きを考え、働きかけていきたいと思つたので信徒の皆さんにも関心をもつていただきたい」と抱負を語られた。

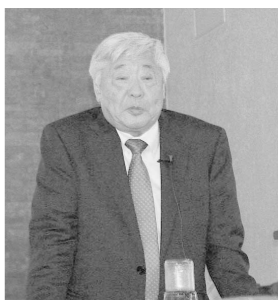
### 震災復興支援プロジェクトがスタートしました

三一教会では、この四月からあらたに「東北震災支援プロジェクト」を立ち上げました。未曾有の被害に見舞われてから一年少々、ともすれば被災報道に慣れつこになってしまいつつある現在、もう一度この震災を、自分たちのこととして捉えなおそうという試みがこのプロジェクトの主旨です。

そのため、スタッフを固定せず、各自ができることを自主的に起案し、実行していくことを目指します。期間はひとまず二年間と定めています。活動の中で収入が得られたものについては、教会の震災支援募金に組み入れていきます。ここに、教会として実施された二つの試み、そして個人で動き始められた方々の取り組みについて、それぞれご紹介します。

### 第二回 河野和義氏講演会

(5月13日)



5月13日、震災復興支援プロジェクト第一弾として、震災前、陸前高田でしようゆ醸造所を営んでおられた河野和義氏をお招きし、お話を伺った。創業205年を誇る「八木澤商店」は、蔵・製造工場のすべてを津波に奪われた。40名の社員の半数以上が家や家族を失い、悲しみと喪失感の中、労苦を共にしてきた社員の生活をなんとか守りたい、という一念が、河野さんと現社長の息子、通洋さんを突き動かし続けたとのこと。誰ひとり解雇

することなく、新入社員2名も予定通り採用。とはいえ、売るもの、作るものが全くない、ゼロからの復興の道を暗中模索し続ける中、2km先のがれきの中から、しょうゆ樽が無傷で発見される。そこにしょうゆ作りの命である「もろみ」が生きていたのである。

これを足掛かりに、インターネットでのファンド募集、かつてはライバルだった他社への製造委託と、それまで築いた人脈、全国からの支援の手に支えられ、一歩ずつ再生の途を辿っている。

「震災を機に、売上を重視したそれまでの価値観から、人の優しさ、絆こそが最高の財産と思えるようになった。家族揃って食事ができる喜び、当たり前なことがこんなに幸せとは」と語る河野さん。講演後のお茶会では、立教大学時代の先輩、東理夫兄のギターに合わせ熱唱。くつろいだ嬉しそうなその笑顔の後ろに、これまでのご苦労を思い、却って胸が詰まるようでもあった。「語り部となるべきは(学者

でなく)被災者のみ」という河野さんの言葉通り、その人々にしか語りえないリアルティは、我々の心を必要な場所へ導き続ける最大の要素だと思う。当日ホールで販売された商品は完売。参加者約50名からの献金は46175円、教区震災支援募金として捧げられた。

### 第二回 アカペラを歌おう

(6月24日)

五線に書かれていたのは▲や■や◆の図形音符(Shape notes)。これは教会に楽器がなかった米開拓時代、会衆に讃美歌を教えるために編み出された方法で、このシステムを継承していこうと活動しているアラバマ大学のティム・クックさん夫妻が訪れて指導された。「日本人は教えやすいし、上手」と、参加者(約120名)のハーモニーに感激の様子。ホールでの手作りケーキのお茶の会も教会外からの大勢の参加者とともに楽しまれた。(募金62950円)

### 釜石被災者支援センターを訪れて

本多峰子

「あの日」以後、被災地を早くしっかりと見ておきたい、そしてどんな小さなことでもよい、何かお役に立てないかと思いつつ続けてきた。この度その願いが叶い、六月十三日より四日間、名倉雅子さんと「釜石被災者支援センター」に行くことができた。

着いた日は常駐スタッフの方が車で釜石市周辺の被災地を案内して下さり、次の日から二日間はセンター内で来訪される被災者の方々への対応と自分たち全員の食事作り、そして最終日は仮設住宅での催事への参加と休む間もない長期ボランティアとして働いておられる八幡真也さんのお支えが大きかった。

センターには毎日、二十人前

後の被災者の方が見え、衣類その他(手芸材料が人気があった)の中から必要な物を選び、コーヒーやお茶にひと時休んで帰られるのだが、その時々スタッフとの会話から、このセンターの働きが被災者の方々の中にすでに根付いている感じがして頼もしかった。

訪れた被災地は既に一年

三カ月が過ぎ、片付けられる物は片付けられ、コンクリートの箱物だけになった学校や病院などがポツンと残り、青々繁った草の中に家々の礎石だけが見える。あちこちにはかつての庭の花々が咲き盛っていた。ここは一面の住宅地、賑やかな商店街だったと聞いても、当時を知らない私にはその差の恐ろしさを知る術がないが、変に明るい静寂は被災者の方々の言い様のない大きな不安そのものの様に思われた。

仮設住宅でも同じ印象を受けた。明るく深閑とした中でひっそり居られる方々の不安の深さが思われ、今はその心を支える専門の方が待たれ

ているのではないかと思う。しかし一方で、センターに行けばいつも誰かが迎えてくれる、それがどんなに大きな励みか、被災者を決して忘れないというメッセージをこれからも長く送り続けること、私たちのこの活動も益々重要になると思った。

### 釜石での五日間に思う

4月29日～5月4日

加藤史人



初めて訪れる被災地に描いたほとんどの想像と、今そこにある現実に乖離があること

は、東北にきた誰しもが感じることなのだろうと思う。池袋発の夜行バスが気仙沼を過ぎるころ目を覚まし、陸前高田、大船渡、釜石と北上する中、窓の外にある破壊され尽した土地から目が離せなかつた。頬を伝う涙がどのような感情によってもたらされているのかを考える隙もない。

到着も早々にお花見会の手伝いに参加した。仮設に抱くネガティブな印象に少し変化が訪れる。県立釜石高校吹奏楽部による素晴らしい演奏、皆で歌うきよしのズンドコ節、焼きそば、ジンギスカン、カラオケ。踊り出すおばちゃん。赤ら顔の男衆。走り回る子ども。震災から一年余、長い冬を過ごし、やつと訪れる春の陽気もたらす皆のこぼれるような笑顔。

私がお世話になった釜石ベースは上中島の釜石親愛幼稚園と聖公会が母体となり、釜石市鈴子町にある小さなビルにある。鈴子町の津波到達地点は約50センチ。ベースから歩いて15分ほどの市街地は津



関澤純子さんを偲んで

矢野敬子



二月十八日に純子さまは、八十三歳のご生涯を終えられました。それも突然でした。いつも静かに微笑んでいるお姿が目につかびます。お逢いしたのは、昨年九月二十日頃でした。教会での逝去者記念礼拝の時です。ご主人さまの記念に出席されてしまいました。その時が最後になってしまいました。

お嬢さんが朝起きられないので、なかなか礼拝に出席できないのよ、とのことでした。

関澤さんというと、ご主人さまのご両親様が熱心に教会

委員を何年も引き受けていらつしやいましたし、婦人会にもお出で下さり、活躍なさっていましたから、純子さまは、その陰でひっそり、という感じにお見受けしておりました。

その後は、ご両親の介護に、そしてご主人さまの看護にと、ずっと尽くされたご生涯ではなかったかと思えます。

ご家族は、お兄様とお姉様が二人、お妹様が二人の兄弟姉妹の真ん中とうかがっております。私は妹さんである保坂三保子さんと、近くに住んでおります関係から、家族同士のお付き合いをさせていただいております。今後とも今まで同様のお付き合いをさせていただきたいと、純子様にもお願いしております。

純子様、どうぞ安らかにお眠りください。そして栄子さんを見守ってあげてください。



川島昭二君の思い出

菊池英男



去る四月二三日に神に召された川島昭二君について思い出を書いてくれと言われ、文章を書くことが苦手な私は一瞬躊躇しましたが、考えてみると私たちは本当に不思議な縁があったのです。八〇年ぐらい遡りますが、確か教会が青山にあった頃、私が日曜学校の教師をしていた頃だったと記憶しています。昭二君は確か小学校六年生位でしたが、その時初めて逢ったのです。

その後、第二次世界大戦でも戦地で戦争の経験をした私、教会も合同問題などの厳しい試練を経て、終戦で皆が再び教会の礼拝に出られるようになった時は、本当に平和のありがたさをしみじみと味わ

いました。もちろん、私より若い昭二君も異なった環境でこの時代の苦しみを味わっていたわけです。

その後、昭二君も結婚され、私も夫妻は立会い人を依頼されましたので喜んでお引き受けしました。

教会が代沢に移転してから、川島君も私もほとんど毎週礼拝に出られるような幸せな日々が続きました。結婚した川島夫妻はその後横浜に転居されましたが、私の家族も98年に、不思議と同じ横浜に転居、偶然川島夫妻の家から歩いて五、六分位の所だったのです。

昭二君は教会ではよく庭の手入れを手伝ったり、その他の教会の諸活動にも積極的に奉仕されてきました。

このように、本当に長いお付き合いだったので、私には家族の一人がいなくなったような感じですが、今は天国で神様の庭の手入れでもして楽しんでいられるのでは、と思いたくありません。

心の余白

「少年よ大志を抱け」  
ウィリアム・クラークが  
残したもの

松田義夫

明治初期、北海道にキリスト教の種を蒔き、そして萌芽させたのは、米国人の教育者ウィリアム・クラークである。

明治政府は米国の農政家ケプロンの献策を容れ、一八七二年（明治五年）東京芝に北海道大学の前身「札幌農学校」を開校、七五年同校を札幌に移転、ケプロンの推薦で初代教頭に米国の教育者ウィリアム・クラークが着任した。ちなみにホレイスケプロンは一八七一年（明治四年）、北海道開拓使顧問として来日、札幌市の建設、大農経営などを指導し北海道開拓の基礎づくりに尽力した人物。

クラークは恐らく一六二〇年、英国人一〇二人がメイフラ

ワー号で北米プリマスに移住し、米国人の精神文化に強い影響を与えた清教徒（ピューリタ）の末裔ではないかと想像している。もっともクラークはなぜか一年足らずで「少年よ大志を抱け」の言葉を残して帰国する。理由はわからない。しかし、この僅かな期間にキリスト教精神と科学教育を教えて、内村鑑三や新渡戸稲造らの人材を育てた。

内村は在学中にキリスト教に入信、日露戦争開戦の時、非戦論を唱え、雑誌『聖書之研究』を創刊。組織化された教会とその聖礼典を批判して、聖書と信仰のみを重視する「無教会主義」を提唱した。『基督教信徒の慰め』『求安録』などを上梓している。

新渡戸もキリスト教に入信。米独に留学後、一高校長、京大、東大教授、東京女子大の初代学長を歴任。国際連盟（現国連の前身）事務局次長としてキリスト教精神で国際的に活

躍。その著書『武士道』は名著として世界的に読まれている。

内村や新渡戸から強い影響を受けた人物に経済学者で東大総長になった矢内原忠雄がいる。一九三七年（昭和二年）言論弾圧を受けて東大教授の地位を追われた。第二次世界大戦後、東大に復帰し総長になる。内村が唱えたキリスト教の無教会派伝道者として活動、『帝国主義下の台湾』『イエス伝』などの著書がある。

無聊なるままに新渡戸稲造のことを調べていたら、このようにいろんな事柄が分かったという次第だが、現在、札幌市の郊外にクラークの等身大の銅像が、北の大地にすくと建っている。



傷つきつらい時に  
黙って隣りにいて  
それだけで暖かい  
そんな歌になりたい

切なく苦しい時に  
黙って隣りにいて  
それだけで暖かい  
そんな歌になりたい  
孤独で悲しい時に  
黙って隣りにいて  
それだけで暖かい  
そんな人になりたい

「やさしい歌になりたい」  
(さだまさし)から

教会委員会報告より(3月・4月・5月・6月)

- [3月]
- ① 2月16日に戸田陽子さん、2月18日に関澤純子さんがご逝去された。
  - ② 高橋顕牧師は後藤務さん、諸橋希海さんと共に、3月12日から14日の間、大韓聖公会釜山教区の主教と蔚聖バルナバ教会、西蔚山聖アンナ教会を表敬訪問。
  - ③ 高橋顕牧師は3月15日から19日、牧会支援のため、東北教区の釜石被災者支援センターに出向。
  - ④ 高橋顕牧師は4月1日付で東京聖十字教会の牧師に赴任。今後は東京聖三一教会と東京聖十字教会を司牧することとなる。原則的には毎月第1、第3、第5主日が聖三一教会、第2、第4主日は聖十字教会に勤務。教会委員会は聖三一教会が第1主日、聖十字教会が第2主日。
  - ⑤ 今年の主教巡回日は7月15日に決定。
  - ⑥ AEDをレンタルで設置する。月額5300円。
  - ⑦ 震災支援募金を集めるためにも支援活動を広げる必要がある。コンサートなどの様々な企画の可能性も検討しつつ、震災支援のためのプロジェクトチームを作ることとする。被災地・被災者の支援について、具体的な活動へとつながっていく理解と意識を深めていく努力をしていく。

- [4月]
- ① 高橋顕牧師の東京聖十字教会牧師任命式は4月29日。
  - ② 聖三一教会と聖十字教会の連絡会を行うこととし、偶数月第三日曜日の午後、聖三一教会(尾澤うめ子さん、千村雅信さん)と聖十字教会(打田茉莉さん、田中武晴さん)の連絡委員が主にスケジュール確認を行う。

- ③ 事務所のコピー、印刷機、折り機のリースを更新。
  - ④ 正門の塗り替え、ペストリーのカーテンを交換。
  - ⑤ 東側天井雨漏り、北側外壁のクラック、事務所の床の腐食に関して、修理を前提に検討していく。
  - ⑥ 聖三一・聖十字の両教会に勤務している高橋顕牧師の状況を、信徒も今後一層認識、理解していくように努めている。
- [5月]
- ① 4月9日プリスキラ奥嶋照子さんがご逝去され。
  - ② 4月23日アンデレ川島昭一郎さんがご逝去され。
  - ③ 4月30日(月・休日)に行われた山手教会グループのグリーンデーピクニックでは聖三一から55名、聖十教会から24名、他教会を含め163名が参加し、盛大に行われた。
  - ④ 今年のバザー委員長は後藤敬一さん、委員長補佐は川島一郎さん、加藤史人さん、中野恵美子さんに決定。

- [6月]
- ① 7月1日に洗礼式、7月15日に堅信式予定(主教巡回日)。
  - ② 9月29日(土)14時~16時半まで聖三一教会で世田谷宗教者懇話会主催の「平和を祈る宗教者の集い」を行う。
- プログラムの中で、当教会の聖歌隊も平和をテーマとした聖歌を奉唱する。その後茶話会をホールで行う。
- ③ トリニティーハウス、教会建物の整理整頓をするために、川島一郎さんをリーダーにプロジェクトチームをつくり、大掃除を7月22日に行う。

話題は、聖三二で開かれる8月26日のファミリアパーティーへのお誘い、そして、10月28日に開かれるバザーについて。何と、同日ほぼ同時に両教会のバザーは行われるので高橋先生は、どのようなスケジュールで両教会の会場でお祈りをするのでしょうか。次回は、9月8日(土)の予定。  
(尾澤うめ子)

働きグループ紹介2

教会の働きを支えてくださっている「働きグループ」の皆さんをご紹介します。二回目です。今回は「フラワーギルド」の皆さん。

フラワーギルド

現在のメンバーは十人ほど。たいていは週に二人ずつの担当で、祭壇の両脇と二階のエレベーター脇の二カ所の花を活けるとのこと。大変なことは、とお尋ねしたら、それぞれが花屋でその季節や状況による花を選び、教会まで運んできて活かすことかな。とベテランの中野恵美子さん。中野さんは家が近いけれど、もともと遠くの方には負担が大きいんじゃないかしら、とおっしゃる。

普通は土曜日に教会に来て、アレンジする。礼拝堂は温度も高いし、夏場は花も傷みやすいので、運び入れるのは翌日の主日。二、三日後に枯れ始めたところまで下げてくださるのは、高橋典子さんで、感謝です、と皆さん口を揃えられました。



前列右から  
小林深夏さん、中野恵美子さん、森直美さん、岩立聖子さん、森藤子さん、増田寿子さん、大田節子さん、橋本まさみさん、津村純子さん、塚崎光子さん、八幡道子さん、倉本和子さん

献花献金をしてくださる方もいてとてもありがたいのですが、その方の思いのある花を活けられるとは限らないのが申し訳ない、チーフの八幡道子さん。イースターとクリスマス前の数週間、アドベントに入る時にはリースを作ったり飾りつけに追われる。経験なんか関係なく、どうぞ皆さんも参加して一緒に花との交わりを楽しみましょう、というところは書いてください、と道子さんは笑顔でした。

お誕生葉書宛名書きチーム

お知らせ葉書の宛名を書いてくださるグループには二つあって、一つは今回「登場願った」お誕生会の葉書。もう一つは「逝去記念の葉書」グループ。スペースの問題で、二つずつにしました。

お誕生葉書チームのリーダーは、石川瑛子さん。メンバーは増田文子さん、西依彩さん、沖島幸子さんの仲良し四人組。手で書くことをしてらっしゃるせいか、皆さんとても若々しく、ステキです。



信徒の中で今お送りしているのは、約三分の一。四〇人から六〇人というところ。大切なのは、それぞれの方の家庭の事情やお身体の調子などを考慮しない

と、むしろ無神経な感じを与えてはいけないかと、石川さんは気を配っていらっしゃるとのこと。宛名シールでやれば簡単なのに、と提案してくださる方もいらつしやるけれど、やはり温かみが違うからと、手書きのよさを守つていきたいと、葉書一枚の重みを感じさせてくださる。まるで仲の良い四姉妹みたいなよ、と増田さんはこの仕事を楽しそうでした。

バザー委員長が決まりました

\*バザー委員長 後藤敬一  
補佐 中野恵美子  
川島一郎  
加藤史人

「新しい時代に向かって共に力を合わせて歩もうというコンセプトのもと、人と人との絆を大切にして、本年度もバザーを盛り上げましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。」  
(後藤敬一)

聖十字教会・聖三三教会連絡会

今年の4月より司祭高橋顕先生が聖十字教会と聖三三教会の兼務となり、両教会の様々な活動の日程等すり合わせをする必要が出てきました。そこで、各教会委員の中から代表2名ずつが出席して、偶数月の第三主日に交互に両教会で連絡会を開くことになりました。聖十字は、打田茉莉さん、田中武晴さん、聖三三は千村雅信さんと尾澤うめ子。お互いの教会の週報やチラシ等を交換し、各教会のプログラム日程について確認しました。